

## 第5号議案

PQ23 実行委員会

### PQ 2023 出展のお知らせ

来年、2023年6月にプラハカドリエンナーレ（通称：PQ）が予定通り開催されることになりました。PQ展は1967年に初開催されて以来、チェコ共和国の首都プラハで4年に一度開かれてきた国際舞台美術展です。日本舞台美術家協会も第2回目（1971年）から、前回（2019年）まで欠かさずに参加し、日本の舞台美術と舞台美術家たちを紹介してきました。新型コロナウイルスの影響で今回は慎重を要する決断でしたが、“先が見えない状況ではあるが参加の可能性を残しておくべき”との理事会の決議を経て、昨年11月にPQ本部へ出展の申し込みを行いました。その後、PQ23 検討委員会を立ち上げ、3月末に「国と地域の展覧会（ナショナルブース）」および「学生の展覧会（学生ブース）」の草案を提出しました。今年度はPQ23準備年としてPQ 実行委員会を発足させ、これから1年をかけて展示ブースの具現化を進めてまいります。

パンデミックにより世界中の劇場が閉鎖され、舞台上で仕事をする全ての人と同じ経験をしました。今回のPQ展は再生への思いを込めた特別なものになることでしょう。日本からの渡航が難しい状況が続くことも鑑み、オンラインも使用したハイブリッドな展示方法を模索しています。会員の皆さまには、この度の出展へのご理解と、積極的なご参加をお願い申し上げます。

---

#### 【Prague Quadrennial 2023】

- 会場・・・チェコ共和国プラハ市 プラハ市場
- 開催日・・・2023年6月8～18日（6月7日グランドオープン）
- Artistic Concept：共通テーマは『RARE』・・・劇場が閉鎖され、都市機能が全て止まり、親しい友人と語り合えない…我々はパンデミックにより当たり前の日常がひっくり返される、まれ（rare）な体験をしたと言えます。加えて、21世紀のヨーロッパで現実のものとなっている戦争。この二つの惨事は世界中に暗い影を落としています。前例のない変化を余儀なくされつつある今、舞台上で表現されるべきこと、そしてこの先にあるものは何か、今回はそんなテーマを与えられています。
- JAPAN ブース：草案の概要・・・RAREは日本語で「まれ＝希」、この字は“希少”と同時に“希望”の意味も持っています。ブースのコンセプトは、希少化してしまった人と人との繋がりを捉え直すことから、平和へ繋がる未来を希い、「繋がる」としました。モチーフには劇場の「プロセニウム」から「窓」をイメージし、窓を開くことで距離を超えた世界へと生まれ変わる空間を創り出します。今回はナショナルブース、学生ブースともに、この“日本とプラハを繋ぐ《窓》”で構成し、国境を越えて人から人へ、劇場から劇場へ、舞台美術の展示を通して、平和や希望に繋がる未来図を描けることを期待しています。
- 2022年度（準備年）の主な予定・・・8月末日/タイトルやスペースソリューション計画などコンセプト詳細をPQ本部へ提出、12～1月/出展契約の締結と出展料の支払い、2月/展示最終案をPQ本部へ提出。これらの予定に合わせて、ナショナルブース/学生ブースの展示作品決定など具体的な作業を進めると同時に、公開シンポジウムも計画しています。会員の皆さまには、協会HPやメールマガジンで進行具合を随時お知らせして行く予定です。